

仙林寺だより

NO. 42
編集・発行
松田正貴

行事報告

寺子屋子供会「涅槃団子作り」

二月二十六日、昨年同様御詠歌の方々にお手伝いいただきました。団子作り終了後、脈略なくあやとり登場、おばあちゃん達は昔とつたぎねづかとばかり「一人あや」を披露。前回より参加のペドロソさんもポルトガル流？あやとりで国際交流思わぬ盛り上がりを見せました。

法要では「涅槃図」を前に五色の涅槃団子をお供えし、般若心経、この時ばかりは流石の子供達も神妙な面持ち。お釈迦様の二千五百七十三回忌のご法事を厳かにおつとめしました。お齋には手作りのすいとんをいただきました。

梵声会「坐禅体験」

二十六日、真言宗豊山派の若手僧侶十数名からなる自己研鑽組織「梵声会」の皆さんが坐禅研修に参加されました。真言宗にも「阿字観」と言う瞑想法がありますが、禅宗の坐禅とは如何なるものか体験したいとの事でした。阿字観との相違点などを一通りお話し上げ、いざ坐禅堂へ、法衣に袈裟姿で真剣に坐禅に取り組む姿はまさに僧堂の修行僧そのもの。宗派の違いなど全く感じさせない坐相に、平安の時代から脈々と伝わる弘法大師の懐の深ささえ感じました。合掌

お知らせ

花まつり開催

宗派の垣根を超え、若手僧侶組織が保原に誕生しました。その名も「保原大法螺（おおぼら会）」うそつき集団ではありません。仏教の大いなる教え大法がどこまでも届くことへの願いを形容した名前です。名付け親は、芥川賞作家玄侑宗久師。新しい発想、画期的な会組織に相応しく、真理をつきながら、形式張らず耳触りの良い名称となりました。地域密着型の布教活動を軸に、青少年の健全育成など、潤いある心の成長のお手伝いをさせて頂きたいと考えております。さて、第一回目の記念行事として標題「花まつり」を開催する事となりました。町の目抜き通りを稚児行列で練り歩き、お釈迦様のお誕生をお祝いたします。日時は四月二十九日（みどりの日）、午後一時町民センターを出発し、仙林寺ではお釈迦様の像に甘茶を掛け祈りを捧げます。長谷寺ではお加持を受け、身と心を清めます。幼き日の良き思い出として心に残ること請け合いです。只今、当日御世話してくださるボランティア並びにお稚児さんを募集しております。詳しくは仙林寺までお問い合わせ下さい。



梵声会の皆さん 坐禅を体験



寺子屋子供会

ちよつと一言

「返照（へんじょう）」

「ご供養の功德を表す言葉に「回向返照」があります。供養の心を亡き人に手向ける行為が、巡り巡って我が身を照らし、自分の心が洗われる有難さを言います。亡き人を思い出し、生前のお姿を思い浮かべる時、自然にその恩徳に感謝する報恩感謝の念が映しだされてくるものでしょう。ところで同じ映すといっても、脳科学の世界では人から人への感情の伝達を「ミラーシステム」という言葉で説明します。主に脳の前頭葉でこのシステムが働き、人の心の動きを読み取ると同時に感情が伝達されると言います。日本経済がゼロパーセント成長ぎりぎりの停滞状態、隣のお国が何やら不穏な動きを見せる等々、メディアを通じた様々な情報や、実際の行き交いを通して我々の感情は沈み込んだ気分へと落ち込み、煮詰まった感情は鏡のように互いにコピーし合うようになります。ここで、新年早々世間を騒がせた偽札ではありませんが、悪影響としてのコピーがあれば、良い意味での複写を考えない手はありません。僧侶の集う修行道場を叢林（そうりん）と言います。叢は集まるという意味がありますから木々の集まる所となります。木には大小様々、下草に近いものから樺のような大木まで、生育環境に違いはありません。問題は如何に忠実に祖師の心を映し取れるかにある様です。今では十八年前の3月、「我」の拘りに曇った鏡を携えて、永平寺へ上ったこの身を思う時、くもりを拭い仏の心を映し出す「ミラーシステム」は確かに機能したのでしょうか。今、再構築が必要か否か？